

2024・9

柏の景気情報

令和6（2024）年9月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年9月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

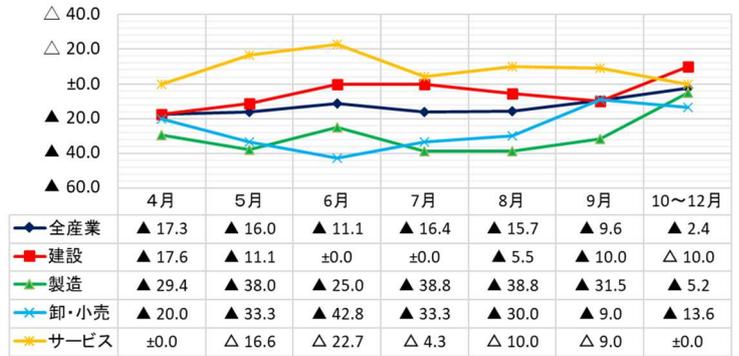
回答期間: 令和6年9月20日～令和6年10月4日 調査対象: 柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数83

前月に引き続き各業界賃上げと物価高で経営圧迫。継続する値上げに、顧客の買い控えの懸念が広がる

9月の全産業合計の業況DI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.6(前月水準▲15.7)となりマイナス幅が6.1ポイント縮小した。

各業界、前月に引き続き価格上昇に伴う経営圧迫と人手不足のコメント多数。製造業・卸小売業・サービス業共に賃上げの影響による人件費の圧迫に加え、物価上昇に伴うお客様の買い控えが懸念されている。未だに働き方改革による時間外労働の規制や、インボイス制度等の導入による経理事務負担の声が寄せられる。年末に向けいかに対応していくかが重要になる。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「先月までの予想より、売上高は増加しなかったが、来月以降は昨年なみの売上、採算が予想される。なお、原価の物価上昇に伴うコスト上昇分は、概ね売上に反映できている。」(地質調査)「年末に向けて畳工事の受注が増えつつある。」(畳工事請負・畳製造販売)「台風前に瓦屋根など改修が必要」(一般土木建築工事)



製造業

「上期、前年比と同等の売上だが、採算ベースでは仕入品や人件費アップ等につき減少。少子高齢化社会の中、若者からシニアまでの幅広い人材活用が課題。」(その他の鉄鋼)「原材料・エネルギー価格の上昇だけでなく、警備保障会社に支払っている警備料まで一律大幅な値上げが要請される等、様々な価格が上昇しており、毎月の固定費が増加している。価格転嫁は一回では済まず、今後も何度も行われると推測されるが、業者間取引だけではなく、エンドユーザーに対し、今後も継続する値上げを受容してくれるかが、景気と経営環境に大きく影響してくると思う。」(自動車・同附属品製造)



卸・小売

「仕入価格の上昇により、買い控えが発生しているが、客単価は維持できているので売上は確保。人件費の上昇と電気代の上昇が大きく、経費削減を実施しているが吸収できるレベルではない。」(大型小売店)「長引く暑さの天候要因も有り、アパレル関係は秋物中心にやや苦戦も、雑貨・趣味商品は堅調。食物販・サービス関連は前年同水準を維持。人手不足、コスト高は出口が見えず取引先からの不安の声続く。」(百貨店)「多くの値上ラッシュにより買い控え等お客様の対応が心配」(その他卸小売)



サービス業

「人手不足には直面している。お試しアルバイト制度を作って面接で断らないでまずお試しアルバイトをしてもらうように工夫をしている。」(他に分類されない事業サービス(室内装飾・展示会装飾))「案件の数は増えてきているが、単価は上がっていない。人材確保のために賃上げをするので、薄利になっている。インボイス制度について手間が掛かる割に利益にはならない(やらないと損をする)ので経理の仕事が増えるだけで特に良いことはない。」(コンピューターソフトウェア開発)「改善基準告示の改正により、ドライバーの時間外労働の上限規制や、拘束時間の改正等により、運行管理が厳しくなりつつありドライバー不足が顕著に経営に影響を及ぼしている。」(一般貨物自動車運送)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲9.6に対し、「CCI-LOBO」が▲14.1で、柏のほうがマイナス幅が4.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業・製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.6	 ▲ 10.0	 ▲ 31.5	 ▲ 9.0	 9.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.1	 ▲ 8.4	 ▲ 23.4	 ▲ 18.7	 ▲ 4.3
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.8	 ▲ 10.0	 ▲ 21.0	 9.0	 36.3
CCI-LOBO	 ▲ 3.3	 ▲ 8.4	 ▲ 15.8	 3.8	 7.1
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.8	 ▲ 15.0	 ▲ 36.8	 ▲ 13.6	 18.1
CCI-LOBO	 ▲ 16.4	 ▲ 16.8	 ▲ 21.8	 ▲ 17.7	 ▲ 10.2
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 60.2	 ▲ 55.0	 ▲ 73.6	 ▲ 63.6	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 63.4	 ▲ 68.2	 ▲ 58.7	 ▲ 69.6	 ▲ 60.8
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.6	 50.0	 10.5	 ▲ 4.5	 31.8
CCI-LOBO	 22.1	 38.9	 12.1	 20.0	 26.7
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.0	 ▲ 5.0	 ▲ 10.5	 ▲ 13.6	 4.5
CCI-LOBO	 ▲ 11.1	 ▲ 5.9	 ▲ 16.0	 ▲ 15.4	 ▲ 9.4

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：2024年9月11日～18日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、改善を示すも、消費の弱さで力強さを欠く

先行きは、需要の伸び悩み懸念から、慎重な見方

9月の全産業合計の業況DIは、▲14.1と前月比からプラス1.3ポイント。

製造業は、生産回復が続く

自動車関係や需要が堅調な電子機器関係を中心に、改善した。卸売業は、電子機器関係や残暑に伴う夏物商材の堅調な需要に下支えされ、改善した。また、建設業は、引き続き堅調に推移する公共工事が全体をけん引し、改善した。一方、小売業・サービス業は、インバウンド・国内観光需要は堅調なもの、消費者の節約志向の継続が全体を下押しし、ほぼ横ばいで推移した。

原材料や電気代、輸送費の高騰等が続く中、依然として価格転嫁は追い付いていない。また、人手不足や賃上げ

原資の確保等の課題も山積している。個人消費は実質賃金のプラス転換など明るい兆しが見られるものの、物価高による弱さが残り、中小企業の業況は力強さを欠いている。

先行き見通しDIは、▲13.4と今月比からプラス0.7ポイント

原材料や郵送費等のコスト増が続く経営環境の中、最低賃金の引上げや深刻な人手不足、価格転嫁の遅れなど、企業経営の足かせは多い。また、長引く物価高に伴う個人消費の低迷を懸念する声が続く聞かれてくる。

電気・ガス代の補充等に伴うコスト減や、新内閣の下での新たな経済対策の期待感も浮かぶが、先行きは需要の伸び悩みが懸念され、慎重な見方となっている。

【建設業】

「公共工事は賃上げ加算があるため、賃上げを行うことで、受注と人材確保の双方の効果が見込まれる。一方、民間工事では、発注者側の時

間外労働の上限規制への理解が進んでおらず、休日の現場稼働が恒常的に発生しており、経費削減も難しい状況が続いている」(二般工業業)

「連日の猛暑で休憩時間を確保する必要があり、計画よりも日数がかかり、人件費が増加。健康管理のため仕方ないが、利益率は悪化した」(リフォーム業)

「値上げ交渉の結果、原材料やエネルギー価格の高騰分を吸収できているが、今後も様々なコスト増が予想されるため、価格転嫁は続けていく必要がある。施設投資も計画しており、作業効率を上げることで、生産性の向上も図っていく」(自動車・付属品製造業)

【製造業】

「急激な為替の変動が生じると、原材料調達コスト増等の課題が発生するため、為替が安定するような施策をきたいする」(民生用電気器具製造業)

【卸売業】

「一時期よりも円安基調は落ち着いたものの、その当時

【サービス業】

のしわ寄せが発生しており、仕入先より3割近い値上げの通達があった。値上げ前に在庫を確保していたため、何とか乗り切ったが、今後は販売価格への転嫁をできるか危惧している」(電気器具卸売業)

「厳しい暑さが続いたことで、熱中症対策商品の引き合いが増加し、売上は堅調に推移した」(日用品・生活関連商品卸売業)

「インバウンド観光客や富裕層による高付加価値商品の売上で現状維持が来ているものの、物価上昇で消費者の購買意欲は依然として低い。最低賃金も引上げられるため、労務費の上昇が見込まれ、厳しい経営環境が続くであろう」(百貨店)

【小売業】

「イベント等では売上が高騰な一方、日常生活では消費者の購買意欲の低迷が続いている。9月も残暑が厳しく、来店客数が減少した」(菓子・パン小売業)

【サービス業】

「原材料価格、電気代等の高騰が続いており、収益を圧迫している。新たな経済対策や実質賃金の増加による経済の好循環を期待している」(飲食店)

【サービス業】

増加で業況は改善しているが、

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲14.0	▲16.5	▲21.7	▲16.6	▲16.5	▲2.4
5月	▲11.4	▲16.5	▲13.6	▲14.8	▲16.6	▲0.8
6月	▲16.2	▲18.7	▲17.6	▲23.3	▲22.2	▲6.0
7月	▲16.3	▲13.1	▲22.8	▲24.0	▲20.8	▲5.4
8月	▲15.4	▲11.6	▲24.4	▲19.9	▲18.4	▲5.2
9月	▲14.1	▲8.4	▲23.4	▲16.1	▲18.7	▲4.3
見通し	▲13.4	▲7.5	▲15.4	▲17.8	▲18.2	▲9.4

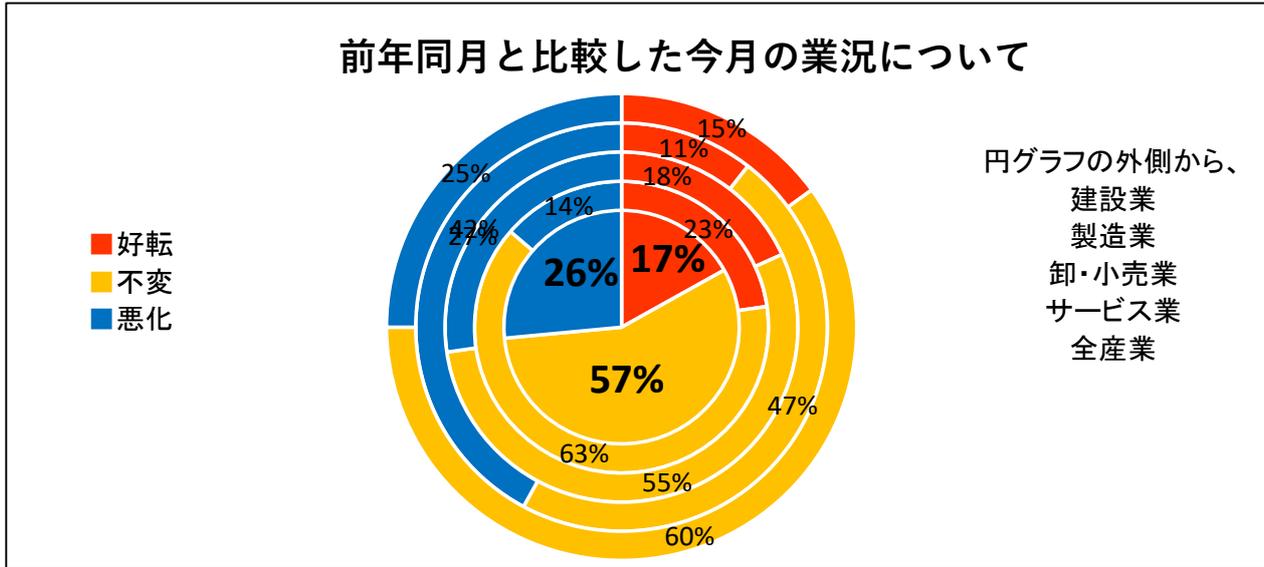
競合他社の新規参入により価格や人材確保で競争が発生しており、今後を見据えると厳しい状況である。設備投資や従業員研修でハード・ソフト両面を整備し、顧客に選ばれよう努めていく」(宿泊業)

「原材料価格、電気代等の高騰が続いており、収益を圧迫している。新たな経済対策や実質賃金の増加による経済の好循環を期待している」(飲食店)

令和6年（2024年）9月の動向

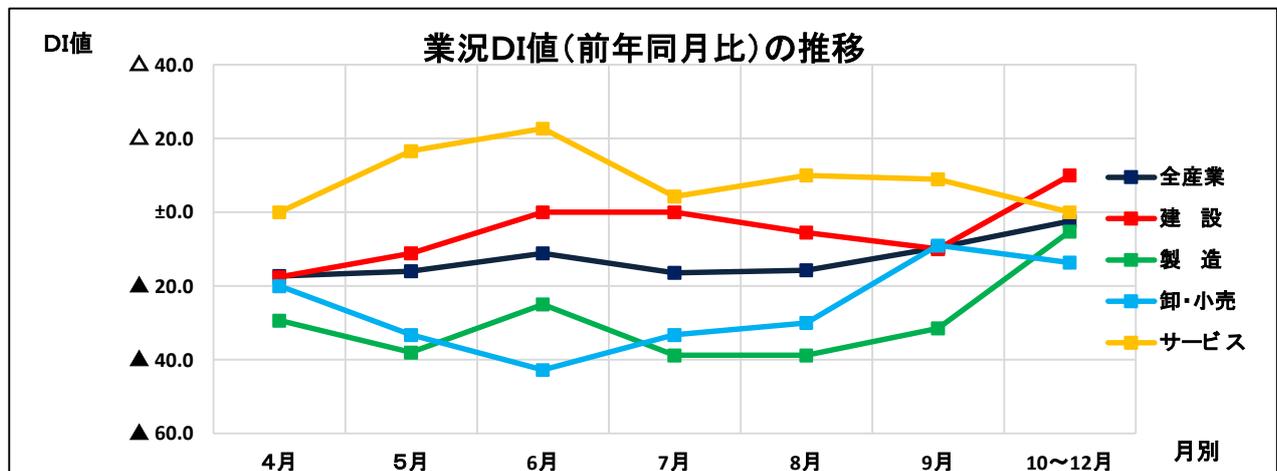
【業況について】

- 9月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲9.6（前月水準▲15.7）となり、マイナス幅が6.1ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、▲2.4（前月水準△7.8）となり、マイナス幅が10.2ポイント拡大した。



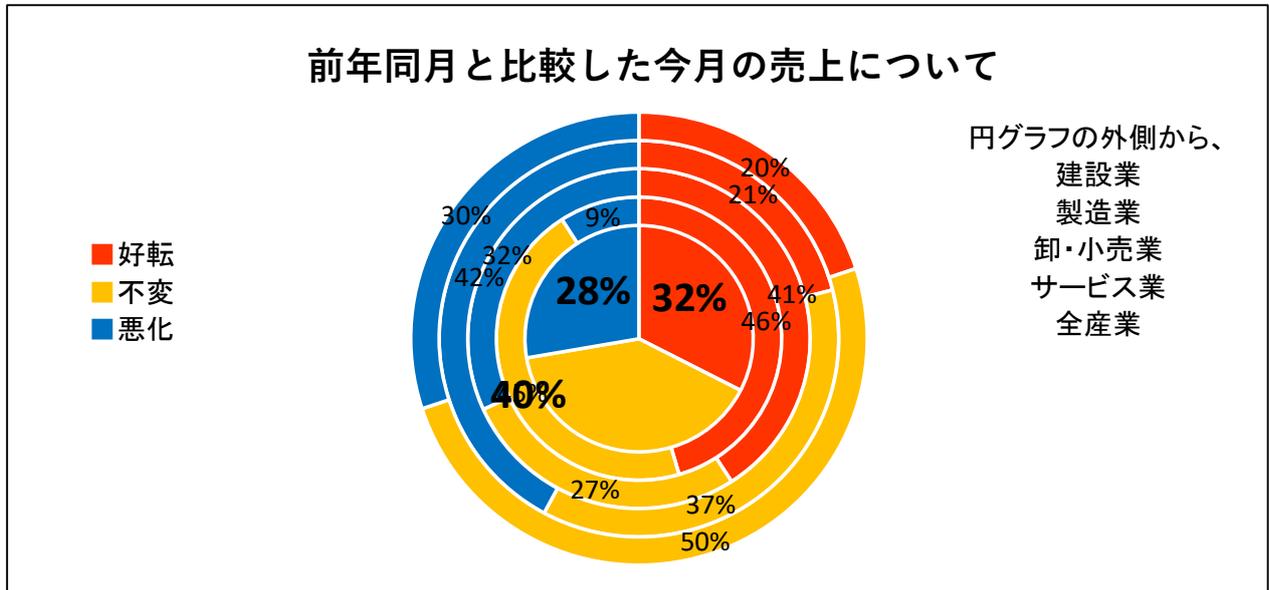
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~12月 (9~11月)	
全産業	▲17.3	▲16.0	▲11.1	▲16.4	▲15.7	▲9.6	▲2.4 (△7.8)	
建設	▲17.6	▲11.1	±0.0	±0.0	▲5.5	▲10.0	△10.0 (△16.6)	
製造	▲29.4	▲38.0	▲25.0	▲38.8	▲38.8	▲31.5	▲5.2 (±0.0)	
卸・小売	▲20.0	▲33.3	▲42.8	▲33.3	▲30.0	▲9.0	▲13.6 (▲5.0)	
サービス	±0.0	△16.6	△22.7	△4.3	△10.0	△9.0	±0.0 (△20.0)	



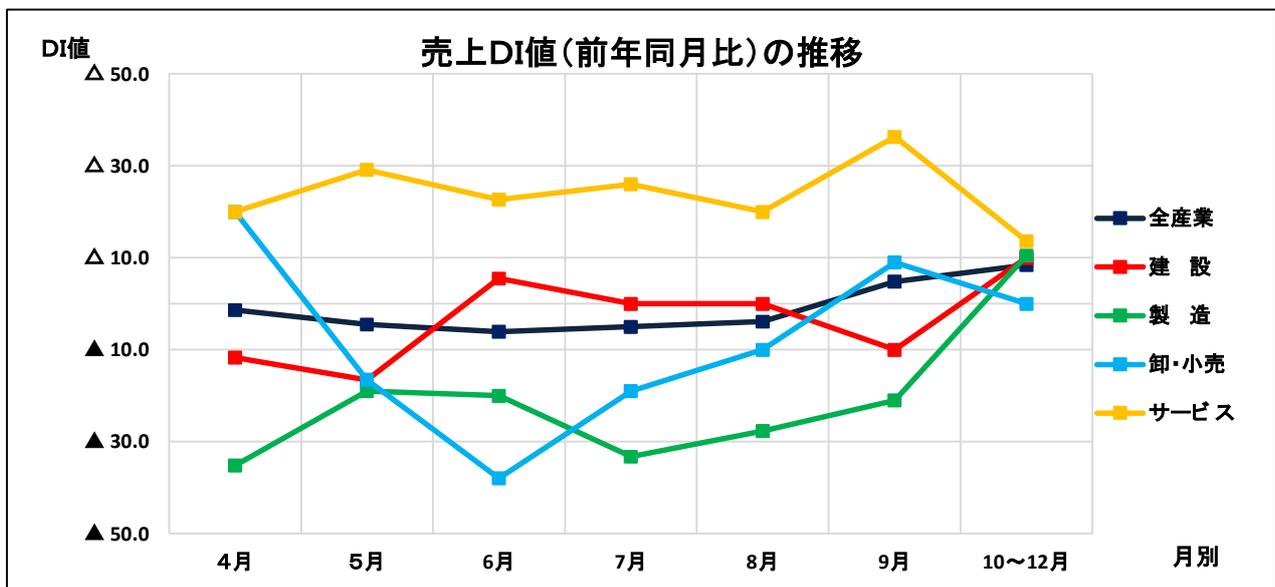
【売上について】

- 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.8(前月水準▲3.9)となり、マイナス幅が8.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△8.4(前月水準△17.1)となり、マイナス幅が8.7ポイント拡大した。



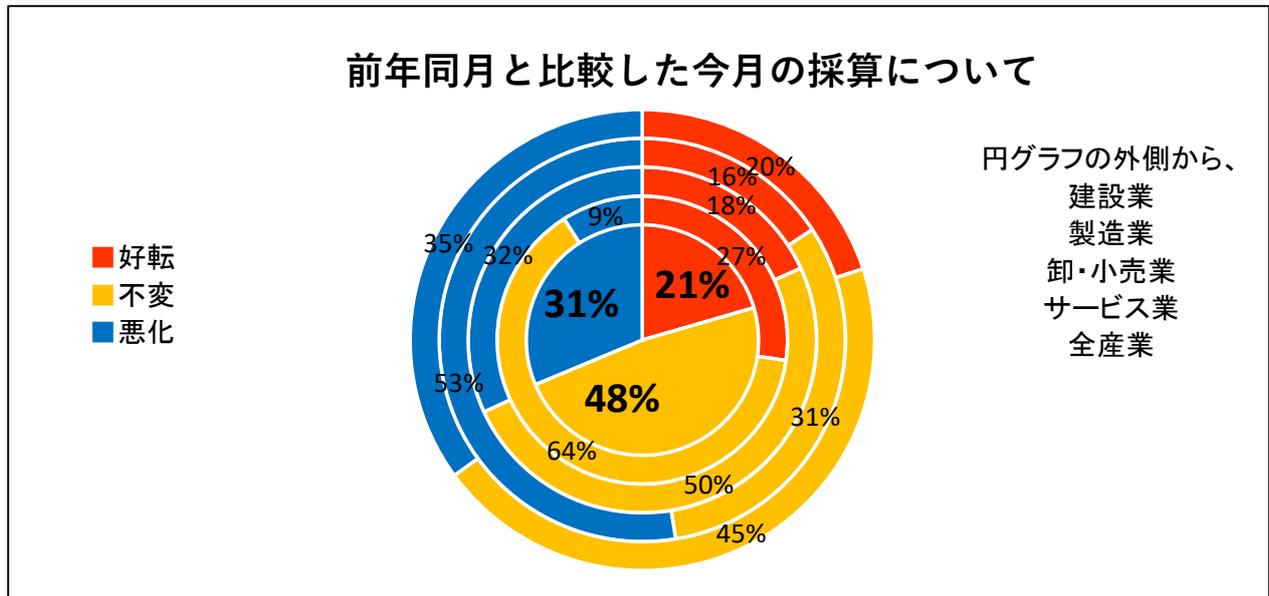
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~12月(9~11月)	
全産業	▲1.4	▲4.5	▲6.1	▲5.0	▲3.9	△4.8	△8.4	(△17.1)
建設	▲11.7	▲16.6	△5.5	±0.0	±0.0	▲10.0	△10.0	(△16.6)
製造	▲35.2	▲19.0	▲20.0	▲33.3	▲27.7	▲21.0	△10.5	(△5.5)
卸・小売	△20.0	▲16.6	▲38.0	▲19.0	▲10.0	△9.0	±0.0	(△20.0)
サービス	△20.0	△29.1	△22.7	△26.0	△20.0	△36.3	△13.6	(△25.0)



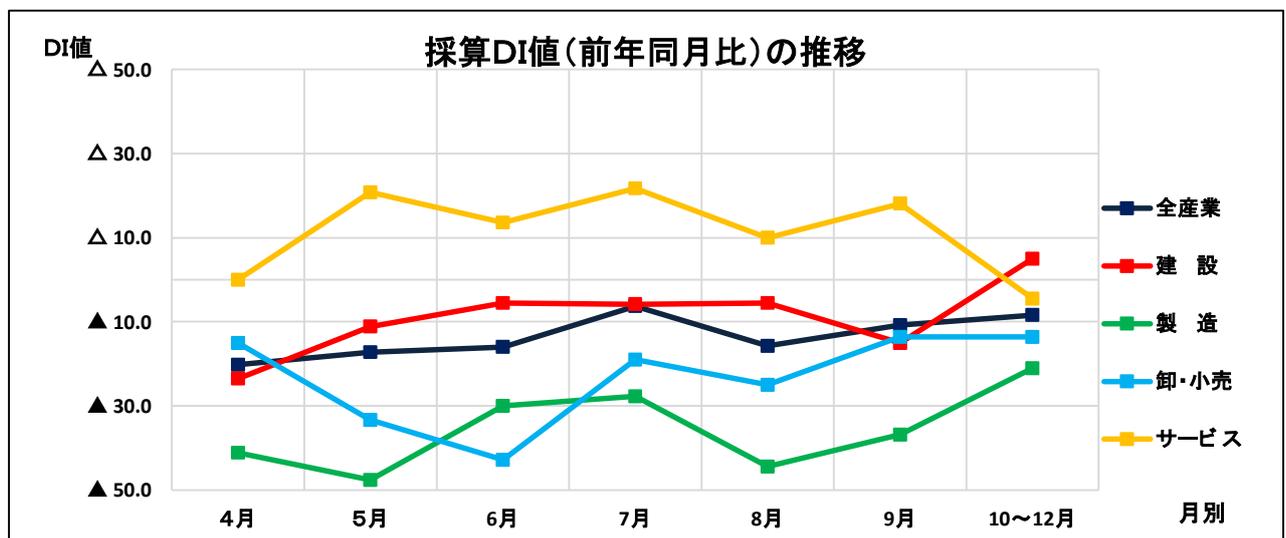
【採算について】

- 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.8(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が4.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.4(前月水準△1.3)であり、マイナス幅が9.7ポイント拡大する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

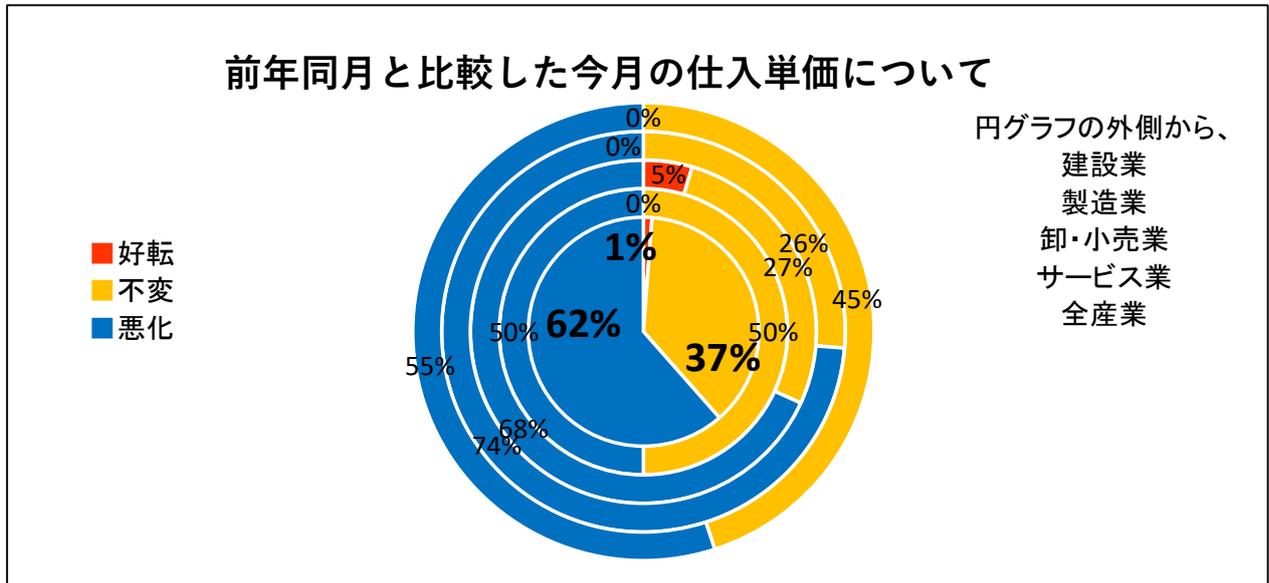
	令和6年						先行き見通し	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~12月 (9~11月)	
全産業	▲20.2	▲17.2	▲16.0	▲6.3	▲15.7	▲10.8	▲8.4 (△1.3)	
建設	▲23.5	▲11.1	▲5.5	▲5.8	▲5.5	▲15.0	△5.0 (▲5.5)	
製造	▲41.1	▲47.6	▲30.0	▲27.7	▲44.4	▲36.8	▲21.0 (±0.0)	
卸・小売	▲15.0	▲33.3	▲42.8	▲19.0	▲25.0	▲13.6	▲13.6 (△5.0)	
サービス	±0.0	△20.8	△13.6	△21.7	△10.0	△18.1	▲4.5 (△5.0)	



【仕入単価について】

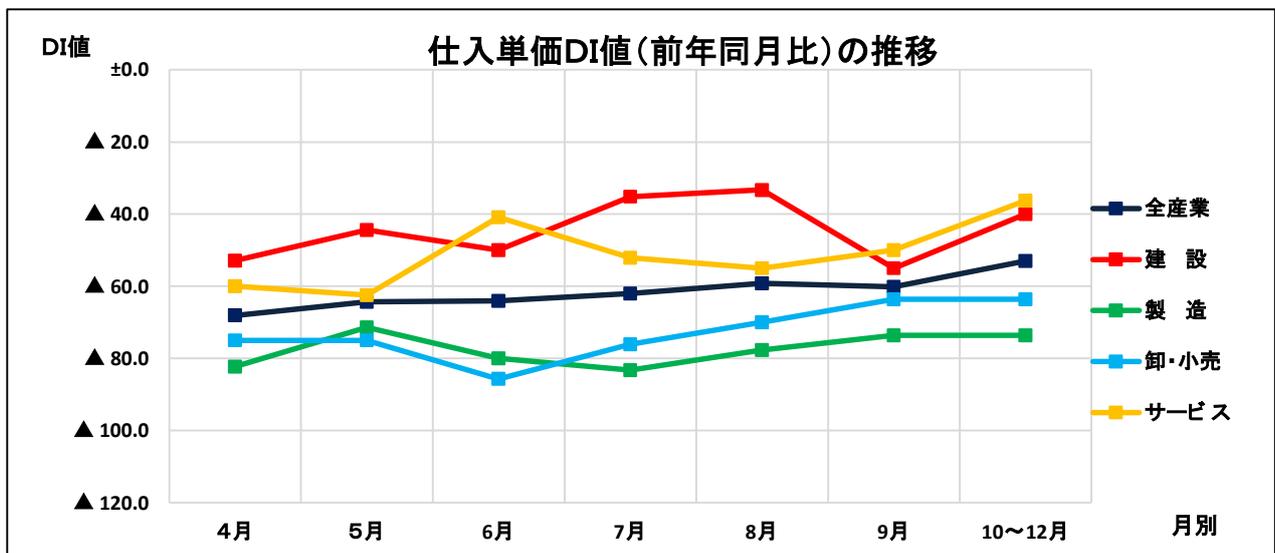
○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.2(前月水準▲59.2)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲53.0(前月水準▲53.9)となり、マイナス幅が0.9ポイント縮小する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

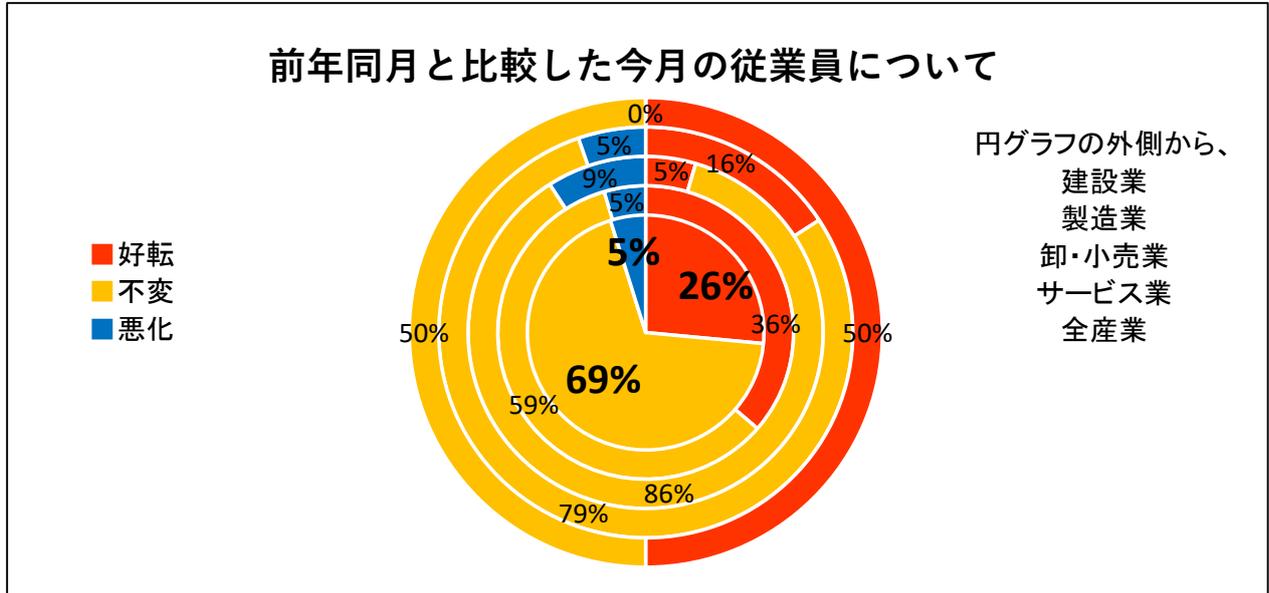
	令和6年						先行き見通し	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~12月 (9~11月)	
全産業	▲68.1	▲64.3	▲64.1	▲62.0	▲59.2	▲60.2	▲53.0 (▲53.9)	
建設	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲35.2	▲33.3	▲55.0	▲40.0 (▲22.2)	
製造	▲82.3	▲71.4	▲80.0	▲83.3	▲77.7	▲73.6	▲73.6 (▲83.3)	
卸・小売	▲75.0	▲75.0	▲85.7	▲76.1	▲70.0	▲63.6	▲63.6 (▲65.0)	
サービス	▲60.0	▲62.5	▲40.9	▲52.1	▲55.0	▲50.0	▲36.3 (▲45.0)	



【従業員について】

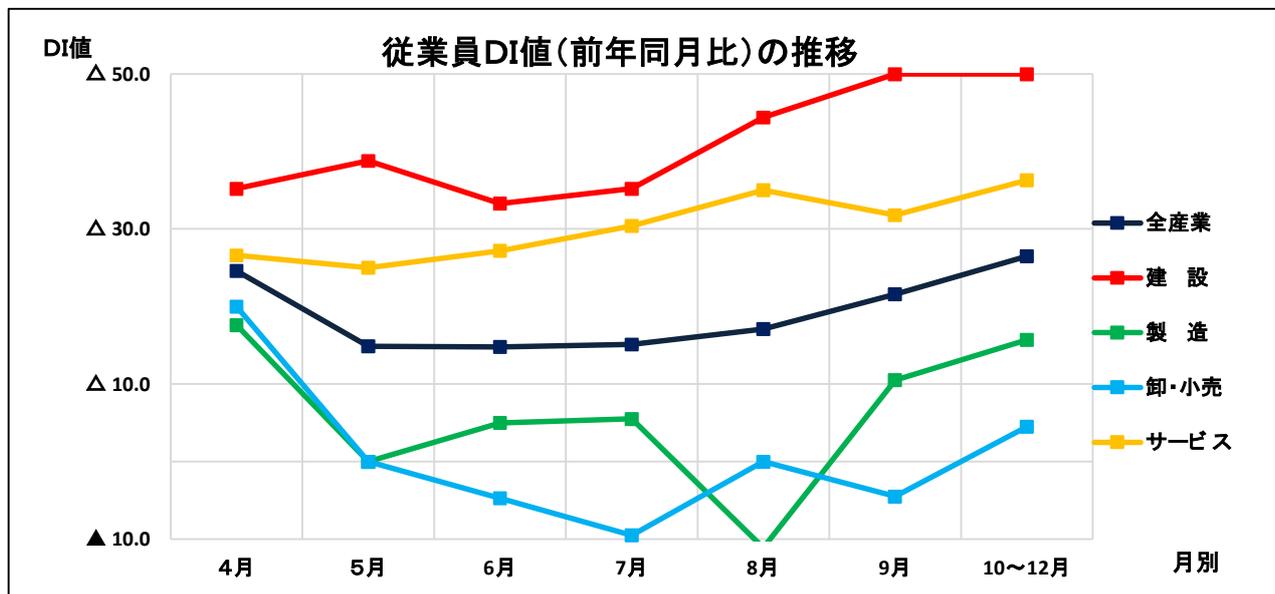
○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△21.6(前月水準△17.1)となり、プラス幅が4.5ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△26.5(前月水準△19.7)となり、プラス幅が6.8ポイント拡大する見通しである。



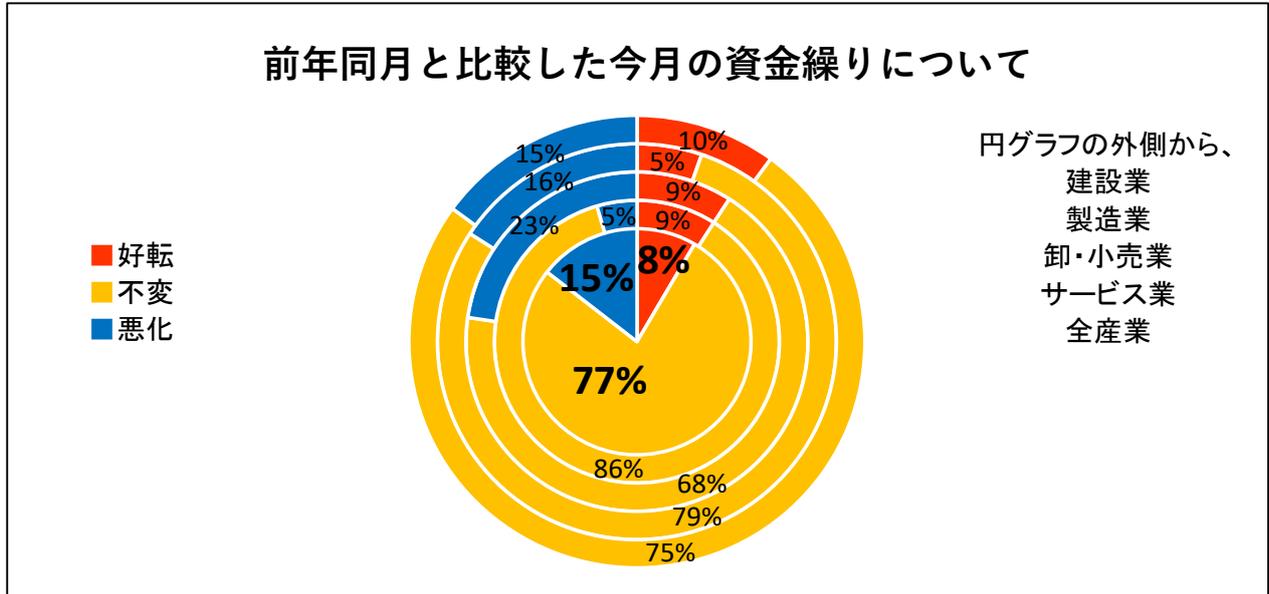
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~12月 (9~11月)	
全産業	△24.6	△14.9	△14.8	△15.1	△17.1	△21.6	△26.5 (△19.7)	
建設	△35.2	△38.8	△33.3	△35.2	△44.4	△50.0	△50.0 (△33.3)	
製造	△17.6	±0.0	△5.0	△5.5	▲11.1	△10.5	△15.7 (±0.0)	
卸・小売	△20.0	±0.0	▲4.7	▲9.5	±0.0	▲4.5	△4.5 (△10.0)	
サービス	△26.6	△25.0	△27.2	△30.4	△35.0	△31.8	△36.3 (△35.0)	



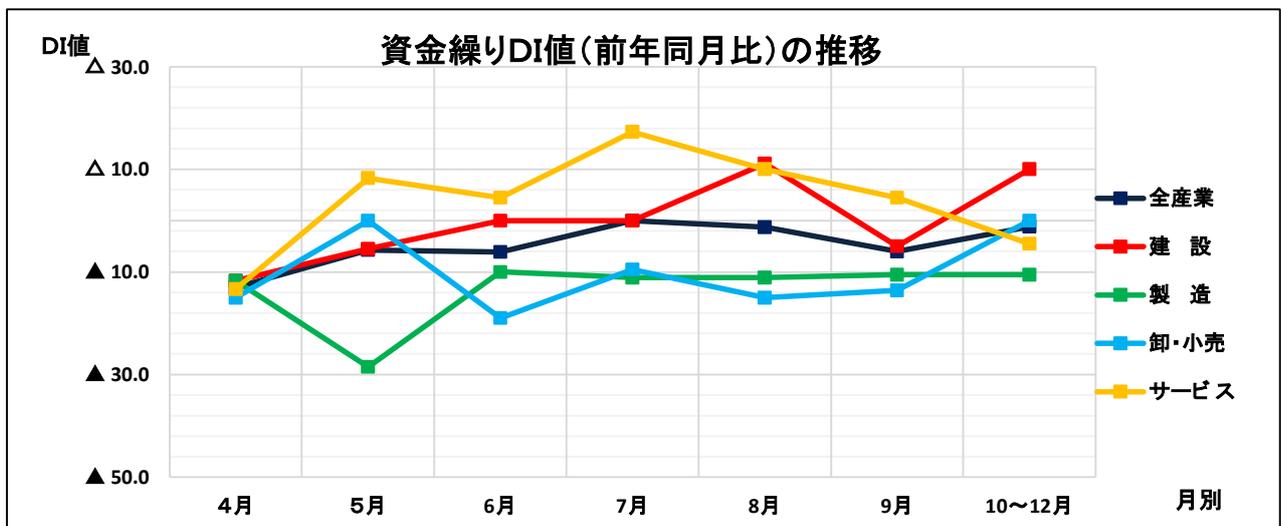
【資金繰りについて】

- 9月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.0(前月水準▲1.3)となり、マイナス幅が4.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.2(前月水準△1.3)となり、マイナス幅が2.5ポイント拡大する見通しである。



資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10~12月 (9~11月)	
全産業	▲13.0	▲5.7	▲6.1	±0.0	▲1.3	▲6.0	▲1.2 (△1.3)	
建設	▲11.7	▲5.5	±0.0	±0.0	△11.1	▲5.0	△10.0 (△11.1)	
製造	▲11.7	▲28.5	▲10.0	▲11.1	▲11.1	▲10.5	▲10.5 (▲11.1)	
卸・小売	▲15.0	±0.0	▲19.0	▲9.5	▲15.0	▲13.6	±0.0 (±0.0)	
サービス	▲13.3	△8.3	△4.5	△17.3	△10.0	△4.5	▲4.5 (△5.0)	

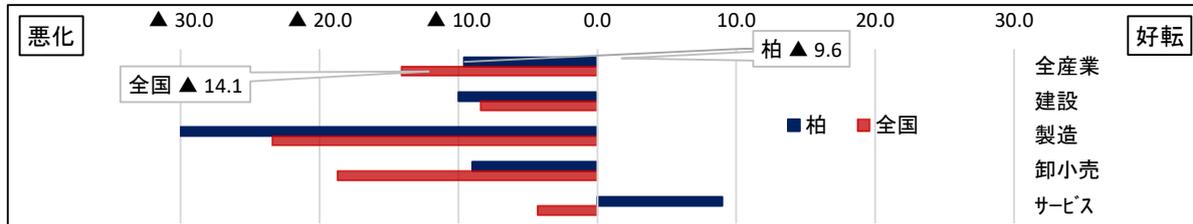


全国（CCI-LOBO）との比較

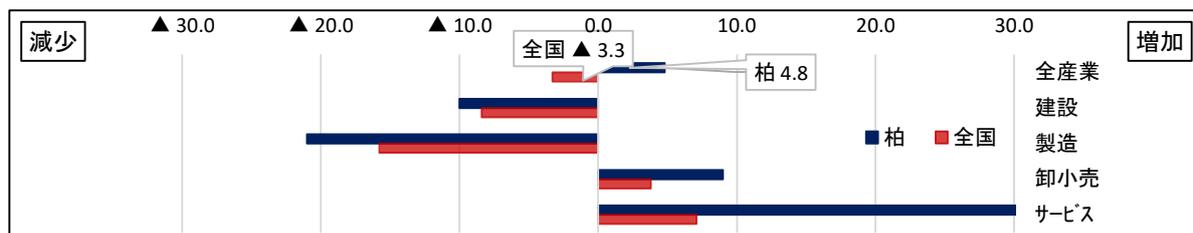
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

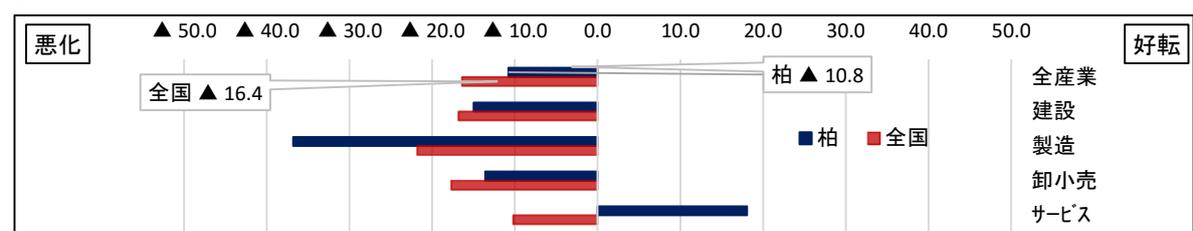
【業況D I】



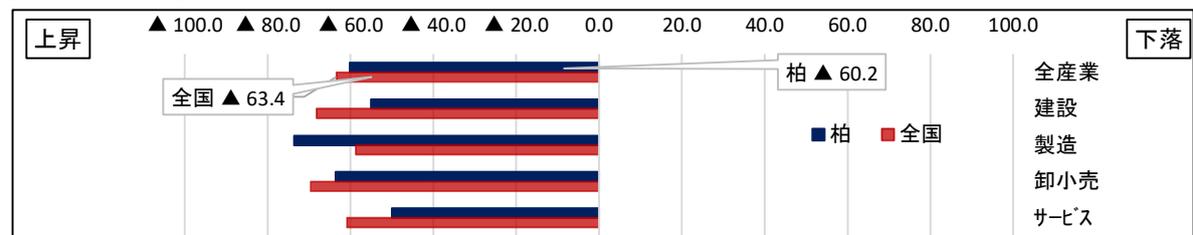
【売上D I】



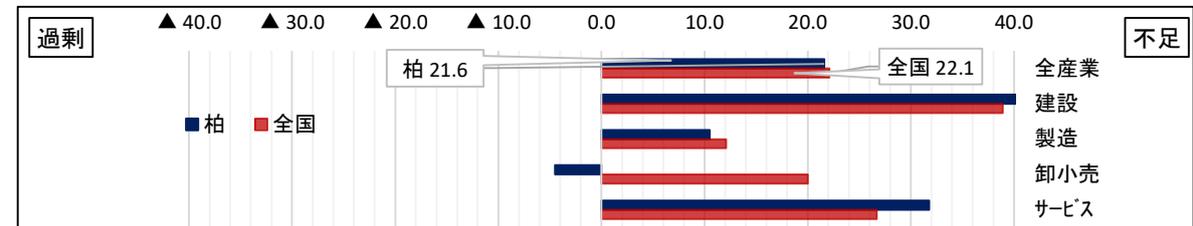
【採算D I】



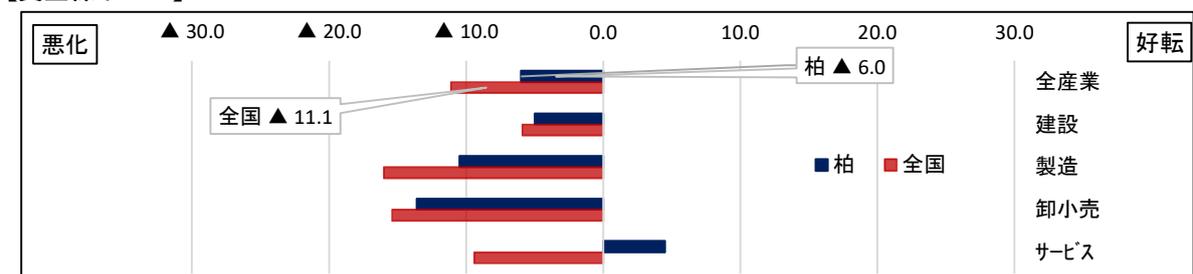
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	自由民主党総裁がだれになるかによって景気回復が前進になるか後退になるかとても重要だと思えます。	塗装工事業
	台風前に瓦屋根など改修が必要	一般土木建築工事業
	先月までの予想より、売上高は増加しなかったが、来月以降は昨年なみの売上、採算が予想される。なお、原価の物価上昇に伴うコスト上昇分は、概ね売上に反映できている。	地質調査・地質コンサルタント
	年末に向けて畳工事の受注が増えつつあります。	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	医療品容器に関しては新企画の相談や立ち上げ等活発な動きだが、化粧品容器の関しては相変わらず先の見通しが無い。	プラスチック加工
	*最低賃金の上昇や働き方改革の影響で人件費の上昇が今後経営を圧迫すると考えられる。 *為替の不安定や中国・ロシア・北朝鮮などの独裁体制の国家の影響で先行きが不安定である。	一般産業用機械・装置製造業
	日本経済活動目標が大・中企業の所にある。小企業は踏み台になっている状況の働き方改革に思える。	印刷業
	最近では原材料・エネルギー価格の上昇だけでなく、警備保障会社に支払っている警備料まで一律大幅な値上げが要請されたり等、あらゆるものの価格が上昇してきていて、毎月の固定費がどんどん上がっている。価格転嫁も1回では済まされず、今後も何回もやって行かなくてはならないと推測されるが、業者間取引だけでなく、エンドユーザーが値上げに対して、今後も続くであろう値上げを更に受け入れてくれるかどうか、景気と経営環境に大きく影響してくると思う。	自動車・同附属品製造業
	ネガティブなことだけを集めるのではなく、ポジティブなことも集めると、バランスがよくなると思います。	古紙卸売業
	上期、前年比と同等の売上だが、採算ベースでは仕入品や人件費アップ等につき減少 少子高齢化社会の中、若者からシニアまでの幅広い人材活用が課題	その他の鉄鋼業
	「生き残るためには変わらなければならない」深い意味のある言葉ですが、社会も同じ事で、変化に乗り遅れないようにしたいものです。社員にも変化することを伝えていますが、伝わらない。繰り返し、繰り返しが必要ですね。	印刷業
	10月請求より支払サイトの期間を120日から60日へ変更予定なので借入れが大幅に増加予定。	その他の機械・同部品製造業
	閉店セールがスタートし、衣料品や住まいの品が好調に推移している。特に衣料品は、近隣で同価格帯で購入できる場所が少ないため、肌着などは買いための傾向がみられる。食料品については普段と変わらない。	大型小売店
	残暑厳しく生菓子の売上げが伸び悩む。	洋菓子店

【業種別】 業界内トピックス

卸・小売業	*多くの値上げラッシュにより、買い控え等お客様の対応が心配。	その他の各種商品小売業
	・仕入価格の上昇により、買い控えが発生しているが、客単価は維持できているので売上は確保 ・人件費の上昇と電気代の上昇が大きく、経費削減を実施しているが吸収できるレベルではない	大型小売店
	年末に向けてお客様の購買意欲は上がっていくものと考えます。	その他の各種商品小売業
	・長引く暑さの天候要因も有り、アパレル関連は秋物中心にやや苦戦も、雑貨、趣味商品は堅調。食物販・サービス関連は前年同水準を維持。 ・人手不足、コスト高は出口が見えず取引先からの不安の声続く。	百貨店
	米不足からの価格高騰で、消費が減るのが心配	飲食料品小売業
サービス業	物価上昇に伴い管理費用の点検と見直しを模索中	不動産賃貸・管理業
	人手不足には直面しております。 お試しアルバイト制度を作って面接で断らないでまずお試しアルバイトをしてみようように工夫をしています。	他に分類されない事業サービス業(室内装飾・展示会装飾)
	不動産の価格は落ち着いてきています。高止まり状態が続いています。市場の動きは鈍いです。金利が上がっていますので、一般のお客様は、様子見でじっくりと購入を考えています。	不動産管理業
	10月からの最低賃金改定に合わせて時給を上げることを検討しているが、その資金上昇分をどう捻出するか苦心している。	学習塾
	案件の数は増えているが、単価は上がっていない。 人材確保のため賃上げをするので、薄利になっている。 インボイス制度については手間が掛かる割に利益にはならない(やらないと損をする)ので経理の仕事が増えるだけで特に良いことはない。	コンピュータソフトウェア開発
改善基準告示の改正により、ドライバーの時間外労働の上限規制や、拘束時間の改正等により、運行管理が厳しくなりつつありドライバー不足が顕著に経営に影響を及ぼしている。	一般貨物自動車運送業	

調査要領

回答期間

令和6年8月20日 ~ 令和6年9月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	83	48.0%
建設	38	20	52.6%
製造	44	19	43.2%
卸・小売	46	22	47.8%
サービス	45	22	48.9%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こ う3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				